

7/15(土)
14:00~
西南学院大
にて上映!

ラジオ下神白

しもかじろ

あのとき あのまちの音楽から いまここへ

監督・撮影・編集

小森 はるか

福島県復興公営住宅を舞台にした、
ちょっと変わった被災地支援活動。
「被災者」という括りでは取まらない、
一人ひとりの人生が滲んだ声の記録。

◆福岡上映会

日時:2023年7月15日(土) 13:30開場 / 14:00開始

会場:西南学院大学内 西南コミュニティーセンター・ホール

料金:一般1500円、学生1000円 ※事前予約不要、当日券のみ ※17時頃終了

ゲスト:小森はるか(映像作家) & アサダワタル(文化活動家)

主催:西南学院大学「ことばの力養成講座」

同日・関連企画

◆「福島ソングスケイプ」をともに聴き、
アサダワタル & 小森はるか と話す会

7月15日(土) 開場18:00 / 開始18:30 終了20:30

会場:唐人町プラザ甘棠館 カルチャーホール

参加費500円(定員25名)



ラジオ、歌声喫茶、宅録、ミュージックビデオ…… 次々と変化する「伴走」のかたち

いわき市にある福島県復興公営住宅・下神白団地には、2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故によって、浪江・双葉・大熊・富岡町から避難してきた方々が暮らしている。2016年から、まちの思い出と、当時の馴染み深い曲について話を伺い、それをラジオ番組風のCDとして届けてきたプロジェクト「ラジオ下神白」。2019年には、住民さんの思い出の曲を演奏する「伴奏型支援バンド」を結成。バンドの生演奏による歌声喫茶やミュージックビデオの制作など、音楽を通じた、ちょっと変わった被災地支援活動をカメラが追いかけた。

監督は、震災後の東北の風景と人の営みを記録し続けている映像作家の小森はるか（『息の跡』『二重のまち／交代地のうたを編む』）。本作は、文化活動家のアサダワタルを中心にした活動に、2018年から小森が記録として参加することによって生まれた。

カラオケとは違い、歌い手の歌う速度にあわせて演奏する「伴奏型支援バンド」。支援とは何か？ 伴走（奏）するとはどういうことか？ 「支援する／される」と言い切ることのできない、豊かなかわりあいが丹念に写しとられている。

誰かに寄り添ってもらった経験は、これから進む道の先を、明るく照らしてくれる。

植本一子（写真家）

あの震災を、こんなふうを描くことができるのか。そう驚かされた。かけがえのないふるさと、そして思い出。それをつなぐのが歌であった。 小松理度（地域活動家）

🐦 @shimokajiro

📘 fb.com/radioshimokajiro

www.radioshimokajiro.com

www.radioshimokajiomovie.com

自主上映会募集中!



『福島ソングスケイプ』
アサダワタルと下神白団地のみなさん

発売・販売元：一般社団法人 Granny Rideto
定価：2,300円（+税）

コロナ禍で会えないなか、住民さんとバンドがそれぞれの場所で歌と演奏を録音して生まれた一枚。映画の「その後」が詰まった全15曲。解説は寺尾紗穂（音楽家／文筆家）。

出演：下神白団地の住民さん、アサダワタル、榊裕美、鈴木詩織、江尻浩二郎、伴奏型支援バンド（池崎浩士・鶴田真菜・野崎真理子・小杉真実・岡野恵美子・上原久栄）ほか
編集・整音：福原悠介 ミュージックビデオ撮影・録音協力：齊藤勇樹、長崎由幹、福原悠介 企画：アサダワタル デザイン：高木市之助 広報物編集：川村庸子
協力：一般社団法人Teco、県営下神白団地自治会、市営永崎団地自治会 製作・宣伝・配給：ラジオ下神白 2023年10月17日 日本170分 © KOMORI Haruka + Radio Shimokajiro

問い合わせ先 ◆上映会：法学部・田村元彦 mtamura@seinan-gu.ac.jp ◆話す会：里山社 清田 kiyota@satoyamasha.com